

3月

# 新着図書

## DTOPIA

著者名： 安堂 ホセ  
出版社： 河出書房新社

恋愛リアリティショー「DTOPIA」新シリーズの舞台はボラ・ボラ島。ミスユニバースを巡ってMr.LA、Mr.ロンドン等十人の男たちが争う——時代を象徴する圧倒的傑作、誕生！

第172回芥川賞受賞作

## ゲートはすべてを言った

著者名： 鈴木結生  
出版社： 朝日新聞出版

高名なゲート学者・博把統一は一家団欒のディナーで、彼の知らないゲートの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求める旅の先に、行き着いた場所は……。若き才能が描く、アカデミック冒険譚！

第172回芥川賞受賞作

## 楽園の楽園

著者名： 伊坂幸太郎  
出版社： 中央公論新社

伊坂幸太郎デビュー25周年記念書き下ろし作品。長さは短編、物語は壮大、読みごたえは大長編。大規模停電、強毒性ウィルスの蔓延、飛行機墜落事故などが立て続けに発生し、世界は急速に混乱に陥った。

これらすべての原因は謎の人工知能『天軸』の暴走と考えられた。

五十九彦、三瑚嬢、蝶八隼の選ばれし3人は、人工知能の開発者が残したという巨大な樹の絵画『楽園』を手掛かりに、暴走する『天軸』の所在を探る。

## ダブルマザー

著者名： 辻堂 ゆめ  
出版社： 幻冬舎

飛び込み自殺を図り、死亡したひとりの女性。なぜか、母親を名乗る女性が二人現れて。二人の母親が、娘の死の真相に迫る衝撃のミステリー！

うだるような真夏日、ひとりの女性が駅のホームに飛び込んだ。そこに、なぜか母親を名乗る二人の女性が現れる。性格も家庭環境も全く異なる二人の共通点はただひとつ。娘のことを何も知らない。死んだのは自分の娘なのか。なぜ、死んだのか。違うなら自分の娘はどこにいるのか。二人の母親は、

## 青い壺

著者名： 有吉 佐和子  
出版社： 文藝春秋

「100分de名著」有吉佐和子スペシャル(12・23)で話題沸騰！

半世紀前に書かれた小説が、ついに累計60万部を超えました。昭和も令和も変わらぬ人間模様、リアルな生活描写を青い壺が絶妙に映し出す、絶対品質保証のエンタメ作。シングルマザーの苦悩、すれ違う夫婦、相続争いに悩む娘の言葉を聴いてドキリとする親…人間の奥深く巣食うドロドロした心理を

小気味よく、鮮やかに描き出す絶品の12話の中には

緑色のタイトル名は児童書です

## C線上のアリア

著者名： 湊かなえ  
出版社： 朝日新聞出版

育った家のごみ屋敷となり果て、久しぶりに戻った美佐。家を片づけていく過程で金庫を発見する。そこからひもとかれる、家族にさえ言えなかった叔母の秘密とは……。朝日新聞連載時から話題！湊かなえが新たに挑む、先が読めない「介護ミステリー」。

## 幸せな家族

著者名： 鈴木悦夫  
出版社： 中央公論新社

「これからつぶやくひとふしは とても悲しい物語……」

保険会社のコマーシャル・キャンペーン《幸せな家族》のモデルに選ばれた中道家。しかし撮影はなかなか進まず、やがて不気味な唄の歌詞にあわせてかのように、次々と家族が死んでゆく――

刊行以来、全国各地の少年少女に衝撃を与えてきた伝説のジュヴナイル・ミステリ長篇、奇跡の復刊。

## 寅さんの「日本」を歩く

著者名： 岡村 直樹  
出版社： 山と溪谷社

本書は「寅さんが愛した日本」をコンセプトとして、多くの人々が訪れる約50カ所のロケ地を中心に全340カ所余りの「寅さんの聖地」をご紹介します。

“寅さん目線”で日本の伝統や地域文化を掘り下げながら「男はつらいよ」シリーズの魅力に迫る新しい切り口の寅さん本です。

巻頭グラフ「メイキングコレクション ロケ地の寅さん」も加え、寅さんが歩いた(ロケした)日本の名所・旧跡をはじめ奇景・絶景、城下町、温泉、鉄道、港町、夕刊、古社など、悉く聖地探訪大東

\* 内容紹介は「BOOK」データベースより